



特殊教育コミュニティへの苦情申立て (SECC)

([デュー・プロセス](#)には別の用紙を使用)

この用紙は任意です。当事務局は記入された情報を苦情の処理に使用します。IEP (Individualized Education Program、個別教育計画) プロセスおよび児童・生徒/家族の権利に関する詳細は、[OSPI \(Office of Superintendent of Public Instruction、公立教育監督室\)](#)、[Special Education Dispute Resolution Website \(特殊教育紛争解決ウェブサイト\)](#)を参照してください。

<p>送付先: Dr. Tania May Assistant Superintendent OSPI, Special Education PO Box 47200 Olympia, WA 98504-7200 ファックス:360-586-0247 speced@k12.wa.us</p> <p>送付日: _____</p>	<p>こちらにも送付: 公的機関または学区の特殊教育責任者、および/または学区の教育長にも送付してください。学区の連絡先は Special Education Directory (特殊教育ディレクトリ) に記載されています。</p> <p>当苦情申立ての写しは、電子メール、ファックス、または印刷用紙での提出が可能です。 以下に、公的機関/学区の名前と写しの提出方法をご記入ください。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>送付日: _____</p>
---	---

特殊教育コミュニティへの苦情申立てに関する説明

この用紙の記入についてサポートが必要な場合、またはもっと分かりやすい書式をご希望の場合は、Office of Superintendent of Public InstructionのSpecial Education Division (電話: 360-725-6075または電子メール: speced@k12.wa.us) までお問い合わせください。

OSPIおよび学校/学区/公的機関に同時に苦情申立ての写しを送付する必要があります。 学区/機関の連絡先は [Special Education Directory](#) に記載されています。

苦情申立てには署名が必要です。 IDEA (Individuals with Disabilities Education Act、個別障害者教育法) およびWashington州の特殊教育規則で、署名が義務付けられています。

苦情申立てには氏名と連絡先が必要です。 親または苦情申立人の氏名と連絡先が必要です。苦情が指名された児童・生徒に関する申し立てを含む場合は、その児童・生徒の氏名と連絡先も必要となります。

セクションI: 児童・生徒に関する情報 (特定の児童・生徒に関する申し立てに適用)

OSPIでは、インクルージョンと機会格差解消の実践に努めています。お子様の障害の状態、人種、性別に関する情報を自発的に提供された場合、その機密情報は州全体の傾向を把握し、OSPIの指導と苦情解決手続きの改善にのみ使用されます。苦情が複数の児童・生徒に関するものである場合は、追加のページを使用してください。

_____	_____	_____
児童・生徒の氏名	児童・生徒の障害の状態 (任意)	学年、人種/民族、性別 (任意)
_____	_____	
公的機関 (必須)	学校名 (任意)	



セクションII:苦情申立人に関する情報

氏名

第一言語 (任意)

住所

希望する連絡方法 (任意)

市/州/郵便番号

人種/民族、性別 (任意)

連絡先情報:電話またはメールアドレス

児童・生徒との関係 (親/保護者/その他) (任意)

X 署名

日付

セクションIII:申し立て – 機関/地区/学校にどのような不当行為があったと思いますか？

A. 申立人が主張する違反に関する説明:

何の法律に違反した可能性があるかを知る必要はありませんが、機関/地区/学校が何を間違えたかと考えるかを明確に説明してください。例えば、「教師が私の子供のIEPに従っていなかった」などです。書くスペースがさらに必要な場合はページを添付してください。OSPIが調査できるのは、苦情を受け取った日から1年以内に発生した特殊教育の申し立てのみです。例えば、2021年10月1日に苦情を受け取った場合、2020年10月2日以降の期間を調査できます。

学校側は以下の点で特殊教育法に違反したと考えています:

B. 申し立てに関する事実:

何が起こったかについて、具体的な日付、時刻、その他の関連する詳細情報とともに記入してください。

C. 主張を裏付ける書類はありますか？(任意)

学校からの手紙、児童・生徒の評価やIEP、通知、その他の書類は、何が起こったか、学校が何を間違えたかと考えるかを示すのに役立つ場合があります。これらの書類を添付することをお勧めしますが、必須ではありません。

D. どのような結果を希望しますか？

学校側が生徒の権利を侵害したとOSPIが判断した場合に、どのような措置や救済策を希望するか教えてください。

特殊教育コミュニティへの苦情申立てに関する情報

特殊教育サービス以外のものに関連する案件ですか？

Rehabilitation Act (リハビリテーション法) のセクション 504に基づく差別や児童・生徒の権利に関する苦情は、Office for Civil Rights (1-800-421-3481) またはOSPIのEquity & Civil Rights Office (360-725-6162) までご連絡ください。職業上の行為に関するご質問は、Office of Professional Practices (OPP、専門的実務局)(360-725-6130) までお問い合わせください。

苦情調査中に共有された情報

Washington州の特殊教育規則では、地区が提供した全ての書類を親/申立人と共有し、調査の一環として親/申立人が共有した全ての情報を地区と共有することをOSPIに義務付けています。苦情申立人が苦情の対象となる児童・生徒の親/保護者でない場合、OSPIは、児童・生徒の個人を特定できる情報が共有される前に、保護者の署名付きの情報開示許可書を必要とします。苦情手続きの詳細については、[Ove rview of the Complaint Process](#) を参照してください。

人口統計学的データ

OSPIでは、インクルージョンと機会格差解消の実践に努めています。お子様の障害の状態、家族の人種や民族に関する情報、および児童・生徒の性自認に関する情報を自発的に提供された場合、その機密情報は非公開とし、州の傾向を把握するためにのみ使用します。この情報は、Washington州における学校指導の継続的な改善と、児童・生徒と家族の権利支援プロセスの改善を目的として、各児童・生徒や家族と関連付けることなく集計して使用します。

当然のこととして、OSPIは、特殊教育コミュニティへの苦情申立て (Special Education Community Complaint, SECC) の調査過程でOSPIに提供された情報 (電子メールや特殊教育文書など) を他の個人、団体、連邦機関や州機関と共有しません。

Washington州のPublic Records Act (公的記録法) に基づいて一般市民は該当する情報の開示を要求できますが、そのような要求がなされた場合でも複数の「適用除外」が存在します。言い換えると、一般市民に開示できない種類の情報がいくつかあるということです。重要な点として、公文書の開示請求に対してOSPIは以下の情報を提供**しません**：

- 関連する状況について個人的知識を持たない学校コミュニティの一般的な人が、合理的な確実性をもってその児童
 - ・ 生徒を特定できるような、特定の児童・生徒に関連する、または関連することが可能な単独情報または複数情報の組み合わせ。例えば、児童・生徒の障害や人種・民族に関する情報など。
- 情報が児童・生徒の個人情報の開示に繋がる場合、児童・生徒の家族または保護者の個人情報。
- 家族または保護者の緊急連絡先。

公文書開示請求の詳細については、以下の資料を参照してください：

- [OSPI Public Records Request \(OSPI公文書開示請求\)](#)
- [OSPI Public Records Exemption Codes \(OSPI公文書適用除外規則\)](#)
- [Washington法務長官室 \(WA Office of the Attorney General\) :Obtaining Records \(WA州司法長官オフィス: 記録の取得\)](#)